

令和7年2月

袋井市議会定例会

一般質問通告内容

インターネットで本会議の中継（録画）放送を行っています。
Yahoo! や Google などの検索画面から
袋井市議会を検索して、御覧ください。

傍聴者の皆様へ
携帯電話はマナーモードへの切り替えをお願いいたします。

袋井市議会

一般質問通告議員

実施日		質問順	議員名	質問形式	ページ
2/26(水)	午前	1	竹村 眞弓	一括	3
		2	黒岩 靖子	一括	4
		3	木下 正	一括	5
	午後	4	太田 裕介	一括	6
		5	安間 亨	一括	7
		6	戸塚 哲夫	一括	8
2/27(木)	午前	7	大場 正昭	一括	10
		8	佐野 武次	一括	12
		9	竹野 昇	一問一答	13
	午後	10	高木 清隆	一括	14
		11	寺田 守	一括	15
		12	鈴木 賢和	一括	16
2/28(金)	午前	13	大庭 通嘉	一括	17

質問順序	1	議席番号	12	質問者	竹村 眞弓	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					《一括》	答弁者
1	高齢者の足の確保への取組について <p>今年、日本の総人口の2割弱にあたる約2,200万人を後期高齢者の75歳以上が占めるという超高齢社会に突入しました。公共交通に対するニーズは高まる一方で、地方では人材の減少により交通インフラの維持・運営が困難となり、日常生活に必要な移動手段を確保できない高齢者を中心とする「交通弱者」の増加への課題があります。特に、足などの身体的衰えで、一度の歩行可能距離が短くなり、“これまで使えていたバスに乗れなくなる”といった高齢者も増加することも懸念されています。</p> <p>(1) 現在、地域主体の移動手段として三川・浅羽東の地域協働運行バス及び浅羽笠原地域で行われている日常生活支援活動の中の外出支援があるが、これらの取組をどのように評価しているのか。</p> <p>(2) 地域主体の移動手段の導入に関して、袋井東・笠原・浅羽南の3地区において地域住民と共に今後の方向性を検討するということだが、その進捗状況はどうか。</p> <p>(3) 高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けられる環境づくりを進めていくための移動手段の確保として、地域主体の新たな移動手段の導入に取り組むということだが、その具体的な方向性についてどのように考えているのか。</p> <p>(4) 高齢者への交通施策「足の確保」については、介護予防・日常生活支援総合事業との連携も必要だと考えるが、その点についてどのように考えているのか。</p>				市長	

質問順序	2	議席番号	3	質問者	黒岩 靖子
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	<p>子ども誰でも通園制度について</p> <p>令和6年6月に成立した子ども、子育て支援法等の一部を改正する法律により、月一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位で柔軟に利用できる新たな通園給付として、子ども誰でも通園制度が創設されました。子ども家庭庁では令和7年末までに令和8年度の事業内容の方針について決定され、令和8年度には法律に基づく新たな給付制度を作っていく予定だと聞いている。この制度は各自治体の判断において実施されるとのこと。本市ではどのように進めていく予定か、子育て世代の方たちに知っていただき、より良い制度になっていただくため質問させていただきます。</p> <p>(1) 本市は、この「子ども誰でも通園制度」をどのように考え、進めていくのか伺いたい。</p> <p>(2) 子ども家庭庁では、利用方法は定期利用と自由利用両方を考えているようだが、本市の考えはどうか伺う。</p> <p>(3) 本市での職員配置・設備基準はどのように考えているか伺う。</p> <p>(4) 対象となる子どもは、子ども家庭庁は0歳6カ月から満3歳未満の未就園児と考えているが、本市はどう考えるか伺う。</p> <p>(5) 利用可能時間は、子ども家庭庁では子ども1人当たり「月10時間」と上限を考えている。本市ではどのように考えるか伺う。</p>				教育長
2	<p>袋井市人口ビジョン2060における外国人増への対応について</p> <p>現行の人口ビジョンにおける目標人口は、2060年で8万人維持を掲げられた。その際2060年には袋井市の人口の7人に1人は外国人になることを想定された。政策達成の達成シナリオは人口減少を抑制する政策が強化されることを前提にファミリー層の転出入の均衡を維持し、出生率を1.84まで回復させつつ外国人人口が今後も比較的緩やかに増加することを想定した推計と聞きました。少子化が進む中、外国人が増えることにより、人口減少に歯止めがかかるのは、それも一つの方法ではあると思います。そこで気を付けなければならないことがある。私たちが住む日本と外国では、文化も、しきたりも、考え方も、生活の仕方も、食べるものも違いがあります。日本の中にはうまく外国人とコミュニケーションが取れない地域もあるようです。日本人も外国人もお互いにコミュニケーションを取り、理解し合い受け入れることが大切である。いろいろな違いがあっても当然だが、この地で一緒に暮らすには、住む前にしっかりとルールを伝え守って共に協力し合い仲良く暮らしていきたいと思い、質問させていただきます。</p> <p>(1) 外国人が袋井市民として、本市で生活していく上でのルールをどのように伝えているか伺う。</p>				市長

質問順序	3	議席番号	6	質問者	木下 正	答弁者	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）						《一括》	
1	義務教育における主権者教育の充実について 選挙権年齢引き下げ（18歳選挙権）が実現した公職選挙法の改正から今年 はちょうど10年の節目である。市においても主権者としての自覚を持ち、自 らの権利と責任を理解するための教育が必要不可欠である。 (1) 主権者教育のカリキュラムの見直しや充実は検討されているかを伺 う。 (2) 実践的な学習はどのように行っているか伺う。 (3) 情報提供の強化はなされているか。 (4) 地域社会や議会との連携が必要と考えるが所見を伺う。					教育長	
2	多文化共生の取組について 「ふくろい多文化共生のまちづくり計画」が中間見直しをされ、市議会「フ ッピートーク」にも多くの外国人の方に参加いただき、その重要性を感じた ところである。「ふくろい多文化共生のまちづくり計画」に基づき、現在どの ような取組を行っているか伺う。 (1) 外国人住民が本市で安心して生活できる環境を整えるための取組と して、特に日本語教育と生活支援における現状と課題を伺う。 (2) 多文化共生の意識を高めるための市民への啓発活動についての、現状 と課題は何か。 (3) 市民や地域団体とどのように連携し、取組を進めているか。またその 課題は何か。 (4) 「ふじのくに多文化共生推進基本計画」を策定している静岡県との連 携は取れているか伺う。					市長	

質問順序	4	議席番号	1	質問者	太田 裕介	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					《一括》	答弁者
1	<p>心の健康に対する取組</p> <p>近年、日本の自殺者数は一時減少傾向にあったものの、コロナ禍以降は増加に転じ、特に若年層や女性の自殺が深刻な問題となっている。袋井市においても例外ではなく、行政として積極的に対策を講じる必要がある。自殺は個人の問題ではなく、社会全体で防ぐべき課題であることを踏まえ、本市の自殺対策の現状と今後の取組について伺う。</p> <p>(1) 自殺対策計画を袋井市健康づくり計画に包含して1年、計画の進捗や、現状の課題はどうか</p> <p>(2) ゲートキーパーに関して ア ゲートキーパーの認知度アップのための対策はどうか。 イ ゲートキーパーになっていただいた方々に対するフォローアップの体制はどうか。</p> <p>(3) 行政主導の居場所づくりの方策は。</p> <p>(4) 市単独でのLINEなどSNSを利用した相談窓口の設置はできないか。</p> <p>(5) 事業所への指導はどのようにしているのかその対策の認知度は。</p> <p>(6) アウトリーチ型の支援が必要ではないか。</p> <p>(7) 自殺防止条例制定の考えは。</p>				市長	
2	<p>営農型太陽光発電の設置手続きについて</p> <p>農地の有効活用策として営農型太陽光発電が増加している。しかし、収量の確保や景観への影響、管理不十分な施設による近隣トラブルなどの課題も指摘されている。本市においても今後導入が進む可能性がある中で、適切な許認可やルール整備が求められる。そこで、本市の現状と今後の対応について伺う。</p> <p>(1) 営農型太陽光発電の設置手続きの流れはどのようなものか、その流れは厳格に守られているか伺う。</p> <p>(2) 周辺への環境影響評価はどのように行っているか伺う。</p> <p>(3) 基準の収量が確保できなかった場合の指導や是正措置を求める仕組み等について伺う。</p>				市長	

質問順序	5	議席番号	4	質問者	安間 亨	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）						答弁者
<p>1 関係人口の創出・拡大について</p> <p>本市は、地域づくりの担い手として期待される関係人口の創出・拡大に向け、さまざまな取組を通じて「ふくろいファン」の獲得を進めてきた。今後も、関係人口と共に創る持続可能な地域づくりを実現するため、さらなる戦略的な施策の展開が求められると考える。そこで、本市の関係人口の創出・拡大に向けて、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 関係人口の創出・拡大の観点から、ふるさと納税における「コト消費型(体験型)」返礼品の強化について、今後どのような方向性で取り組んでいくのか。特に、単発的なコト消費にとどまらず、継続的な関係構築につながる施策の検討状況について伺う。</p> <p>(2) 進学や就職を機に地元を離れ、新天地で活躍する学生や若年層は、関係人口創出・拡大の重要な鍵であると考えている。このような若者を「出身者」ではなく、「ふくろいとつながりを持ち続ける存在」とするため、今後どのような取組に注力していくのか。</p> <p>(3) 地域外の子どもやその家族を対象とするさまざまな留学制度や体験・滞在・交流事業の導入、また、親子で楽しむことができるコト消費型返礼品を提供している自治体も存在するが、本市として、子育てや教育分野を通じた関係人口の創出・拡大についてどのような見解を持っているか。</p>						市長
<p>2 協働・共創のまちづくりについて</p> <p>協働・共創のまちづくりをより一層進めるためには、市民の声を反映した施策や多様なステークホルダーが連携した取組が重要であると考えている。そこで、以下の点について伺う。</p> <p>(1) 市民主体のワークショップやアンケートの成果について</p> <p>ア 市民が主体的に参加したワークショップやアンケートから得られた意見や提案は、どのように具体的な政策や施策に反映され、実行されているか。</p> <p>イ その後の事業進捗や事業成果は市民にどのように可視化され、フィードバックされているか。</p> <p>(2) 地域の多様なステークホルダーが集い、実現したい未来像や解決すべき課題を共有し、実験と検証を繰り返しながら地域や社会の課題解決及び活性化に取り組む「リビングラボ」の設置は、協働・共創のまちづくりに資すると考えるが、この取組を効果的に展開するため、行政としてどのような支援体制を整え、関与していくのか。</p>						市長

質問順序	6	議席番号	10	質問者	戸塚 哲夫	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					《一括》	答弁者
1	地域計画の策定状況と今後の取組について 農業経営基盤強化法の改正に伴い、全国各市町村において「地域計画」の策定が取り組まれており、本市では農業委員を中心に本年3月の策定に向けて取り組まれていると伺っている。地域の農業を担う農業者を明確にし、農地の集積・集約を図りながら、農地としての有効活用や適正な管理を促すためには、農業関係者が一体となった取組が大変重要である。 (1) 本市における「地域計画」の策定状況について、予定どおり本年3月に完成するのか。 (2) 次年度以降の検討・見直しについてどのように取り組んでいくのか。 (3) 「地域計画」により明らかになった本市農業の実態は。 (4) 計画策定にあたりどのような意見交換がなされたのか。 (5) 地域の農業の課題が多く出たと思うが、今後どのように対応していくのか。				市長	
2	袋井市の農業振興について 農業の活性化と振興には、新規就農者の確保と育成が重要であり、そのためには農業は魅力があり、“稼げる仕事”であることが重要であると思う。そこで本市の基幹作物である「温室メロン」「米」「茶」の振興について、それぞれ伺います。 (1) 新規就農者を確保するため、本年度から「袋井市クラウンメロン経営継承支援事業」が新たに創設されました。事業の活用状況と課題について伺います。 (2) 親元就農の場合「生計が同一でないこと」が支援の条件となっており、同居親族が補助を受けることができません。この条件に当てはまらず、補助が受けられなかったケースもあったと伺っています。この「生計が同一でない」こととする補助要件を緩和し、より多くの生産者に事業を活用していただくべきであると思うが、お考えを伺います。 (3) 本市における主食用米の作付面積について、令和6年度の実績と令和7年度の見通しについて伺います。昨年の米不足から作付面積を増加しているのでしょうか。 (4) 高温障害への対策として高温に強い品種の導入や、栽培時期を早めるなど対策を講じる予定はありますか。 (5) 国では経営所得安定対策いわゆる転作補助金について見直しが進められている。農地の大区画化やスマート農業導入による生産性向上の推進、飼料用米中心から青刈りトウモロコシへの切り替えなど、本市への影響をどのように捉えていますか。 (6) 茶の輸出には、有機JAS認証に沿った有機栽培の取組が重要です。市内における有機栽培の現状と課題、今後の展開について伺います。				市長	

質問順序	6	議席番号	10	質問者	戸塚 哲夫	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					《一括》	答弁者
3	市南部の主要幹線道路の整備について <p>(1) 沿岸部の東西軸である国道150号は沿線に工場が立地しており、御前崎や浜松方面への物流を支える重要な幹線道路です。現在、御前崎市内や磐田市内では、都市計画決定されたルートに基づき、事業が進められています。しかしながら、袋井市は事業化されておらず、磐田市と袋井市の市境から掛川市内までは、都市計画決定もされていないのが現状です。</p> <p>ア 市内国道150号は、今後どのように整備していくのか現状と見通しについて伺います。</p> <p>(2) 一般県道中野諸井線（富里中地内）改良の見通しについて伺います。富里中公民館から富里下までの約570メートルの未整備の区間は道幅が5.5メートルと狭いうえ、交通量も多く長年この区間の改良について、地元自治会が要望していた。令和5年12月袋井土木事務所から提案のあった住宅街の中の車両や、歩行者の安全を確保するため、通過交通を迂回させる「バイパス案」で事業化を要望していくことで自治会もまとめ、本年度に入り予算措置され、現在道路改良計画に必要な境界確認が実施されている。</p> <p>ア バイパス案が決まり、現在の県道は市道として市に管理移管されると聞いている。かねてより本道路では車両のすれ違いなどで、排水路に設置された蓋の上を通行するたび、沿線の住民は通行に伴う騒音の発生に悩まされている。この問題について、バイパス整備に関連して検討していただきたいがいかがか。</p> <p>イ 境界確認後、詳細設計を行い、用地取得となると認識している。工事着手は何年度を予定しているか。</p>				市長	

質問順序	7	議席番号	16	質問者	大場 正昭
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	<p>治水対策と災害復旧について</p> <p>近年、過去に経験したことのない豪雨災害が発生し、市内各所に甚大な被害をもたらした。大場市長は施政方針で災害に強いまちづくりを優先課題として位置付け、治水対策に全力で取り組むと表明されている。豪雨被害から数年を経過しても、いまだ治水対策・災害復旧も行われていない箇所や遅れている箇所もあると聞く。この現状をどのように受け止めているか伺う。</p> <p>(1) 治水対策について</p> <p>ア これまでの豪雨災害において、敷地川八幡橋西側では床上浸水や農地の浸水被害が繰り返されている。今日まで何ら治水対策がとられていない、この現状をどのように受け止め、今後どのような対応をされるのか伺う。また、これまで治水対策に取り組まず、先送りしてきた理由は何か伺う。</p> <p>イ 新年度予算では、川会地内の明治橋下流に樋門を整備すると聞く。内水被害を防ぐにはバックウォーターを防ぐための樋門設置と、行き場のなくなった内水を強制排水するための排水ポンプの設置が一体となった対策が基本と思う。土木防災や治水対策の観点からこの計画をどう捉えているか伺う。</p> <p>(2) 災害復旧について</p> <p>ア 市内全域における、3回の豪雨災害で被災した道路河川、橋梁、農政、上水道、それぞれの被災箇所と、災害復旧の進捗状況並びに今後の完了見込み時期について伺う。</p> <p>イ 上記の道路河川、橋梁、農政、上水道について、災害復旧がそれぞれいまだ手付かず、遅れている被災箇所の件数と、その理由を伺う。</p>				市長
2	<p>スポーツを核としたまちづくり</p> <p>わが市には、さわやかアリーナやエコパ等、高規格な運動施設が備わっている。また、大規模イベントのレガシーも存在する。市民の健康づくりをはじめ、まちの活性化のためにはそれらを活かしたソフト事業をいかに実施していくかが重要と考える。</p> <p>(1) 子どもたちにとって、さまざまなトップアスリートの考えを学ぶ機会や、直接の指導を受ける機会が重要と考えるが、今後の展開をどう考えているか伺う。</p> <p>(2) 市民へのスポーツの普及には、指導者の存在も重要である。新たな指導者の確保はどうか。</p> <p>(3) 健やかな子どもの育成には、学校のみならず、地域の受け皿が重要と考える。スポーツ少年団や、部活動の地域移行を見据えた地域クラブの育成と、支援の現状と今後の取組方法はどうか伺う。</p>				市長

質問順序	7	議席番号	16	質問者	大場 正昭	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					《一括》	答弁者
2	<p>(4) 本年9月に東京で開催予定の世界陸上のアイルランドチームとの交流については、どのように進んでいるか伺う。</p> <p>(5) わが袋井市が取り組むスポーツツーリズムの目指すべき姿をどのように描いているか。また、その方向性に向かって、現在、どのような課題があり、どのように取り組んでいるのか伺う。</p>				市長	
3	<p>第3次袋井市市税等収納対策アクションプランの取組について</p> <p>「税負担の公平性の維持と自主財源の確保を図る」ことを目的に、第3次袋井市市税等収納対策アクションプランの取組が進められている。市の財政状況が厳しい折、収納率向上は財源確保に直結することであり、力を入れる部分であるが、プランの取組状況とその見解について伺う。</p> <p>(1) 令和8年度末までに、「市税及び国民健康保険税の収入率を県内23市中10位以内とする。」とあるが、現在の状況とその見解を伺う。</p> <p>(2) 給与や生命保険などの差し押さえといった滞納処分を速やかに行うことが、目標を達成するために必要なことであると先日の研修で学んだ。令和4年度以降の差し押さえ件数はどのようになっているか伺う。</p> <p>(3) 取組の強化には、マンパワーの確保や、専門的な知識を有する職員を増やすことが必要である。職員数や職員の経験年数はお隣の磐田市や掛川市と比較し十分と言えるか。現在の状況とその見解について伺う。</p>				市長	

質問順序	8	議席番号	8	質問者	佐野 武次
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	野球場の整備方針は 愛野球場も浅羽球技場と同様に老朽化が進んでいたことから、「まずは本市としての野球場全体の在り方を検討し、結論を出していきたい。」との回答を受け、令和6年度に野球場現況調査委託料909千円の予算を計上された。方向性が明確になるものと期待したが、具体的な調査結果の報告は伺っていない。この予算の執行内容について伺う。 (1) 野球場現況調査委託料は、今後の、市の野球場の在り方を検討するものと解しているが、どのような調査内容であったか。 (2) 調査結果を受け、本市としての、今後の野球場の在り方についての方向性は、どのようになったのか。 (3) 浅羽球技場は「海のにぎわい創出プロジェクト」の中心をなす関連施設と位置付けているが、この点について担当部局としては、どのように捉えているか。 (4) 浅羽球技場の撤去された照明施設を改修する考えはあるか。				市長
2	子どもの視力について 文部科学省の調査結果によれば、視力が1.0未満の子どもの割合が、小学校・中学校・高校の全てで過去最高となった。本市もGIGAスクール構想に基づき、タブレット端末等のICT機器を活用しながら、教育を進めているが、調査結果を踏まえ、現状の対応方策と今後の対応方針について伺う。 (1) この調査結果の数値を受けて、当局は、率直にどのように思われたか伺う。 (2) タブレット端末導入以降、導入前と導入後を比較できる、市独自の視力等の検査は実施されているのか伺う。 (3) 学校端末タブレットのブルーライトに対する対策はどのように行っているか伺う。				教育長
3	MP（マイクロプラスチック）への対応 長野県の環境保全研究所が、海洋汚染の観点で話題のMPの含有調査を県内の主要河川で行ったところ、海のない県においても確認された。市長は、これらに起因する海洋汚染を防ぎつつ自然環境を守り、ひいては市民の健康を守っていくため、市長会等において課題として取り上げ、原因の除去に向けた行動を展開していく考えはあるか伺う。				市長

質問順序	9	議席番号	11	質問者	竹野 昇	
質問事項・要旨（具体的な質問事項）						答弁者
1	会計年度任用職員処遇に関して (1) 資格を有する職員例えば司書、保育士などで本人の希望があれば正規職員化が望まれる。その際特に司書の専門性が生かせるよう、本人の希望が長く同じ仕事を続けたい場合には、4年前後で配置転換することなく、本人の意向を尊重することが大切だと思うが、当局の見解を伺う。 (2) 一般職の会計年度任用職員をできるだけ正規職員にすることにより、職員全体の働き方改革＝残業無しにつながり、災害時対応できる職員が増える。当局のほうから会計年度任用職員に声かけし、採用試験受験を勧め、その際に面接試験では経験が役立つと励ましてほしいが、当局の見解を伺う。 (3) 4月1日現在正規職員が557人、会計年度任用職員が658人、合計1,215人の職員がおられるが、過半数以上が非正規の会計年度任用職員が市の仕事を担われている。この比率が良いと当局は思われているのか。それとも財政が許す限り、過半数以上を正規職員の体制にしたほうが良いと思われませんか。					市長
2	子ども交流館あそびの杜に関して 来年度予算に整備事業として9,313万6,000円が予算化されている。本会議最終日の予算案全体の採決の際、反対討論をする予定だが、仮に可決された場合でも、すぐ設計事業者を選び発注するのではなく、地元や市民との話し合いを大切に、計画内容の合意が得られるよう、また計画見直しを含め、柔軟な対応を望むが、当局の見解を伺います。					教育長
3	学校で紙資源の大切さ（雑紙回収の意義）を考える機会の提供を 雑紙回収の協力を家庭で得るのに、保育園・幼稚園・小中学校で、子どもたちに先生から問題を投げかけ、児童生徒に考えてもらう機会を作ってほしいが、当局の見解を伺います。					教育長
4	田んぼダムで治水対策を 水田を乾燥させるため、稲の刈り取りさらに終了後も田んぼの堰は空けたままになっているが、線状降水帯や台風による水害が心配される時、耕作者の理解と協力を得て、一時的に田んぼに水がたまるよう、堰をするようにしてもらったら、かなり水害が防止できると思うが、この手法に関し当局の見解を伺います。					市長

質問順序	10	議席番号	19	質問者	高木 清隆
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	社会資本であるインフラ資産の維持管理と更新に向けて 埼玉県八潮市の県道交差点において、下水道管の腐食により道路が陥没、通行中のトラックが転落という痛ましい事故が発生した。本市においても、今後20年間で加速度的に老朽インフラが高くなる見込みであり、戦略的な維持管理、更新に取り組む必要がある。 (1) インフラ資産（道路・橋梁・上下水道）における老朽化の現状について (2) インフラ資産の既存更新費用と新規整備費用等について (3) 戦略的メンテナンス体制の強化に向けた、今後の取組について (4) インフラ資産の再編・廃止・除去に向けた取組の必要性について (5) インフラ資産の維持管理・更新に向けた基金等の創設が必要では。				市長
2	公共施設再編基本計画の策定について 令和5年11月議会において、「脱炭素化の取組」等の改訂が図られた「袋井市公共施設等管理計画」が報告されました。この管理計画に基づいて、市民ニーズに適切に対応するとともに、財政負担の軽減を図るため、公共施設の機能をできるだけ維持しながらも、将来のまちづくりの方向性を踏まえた施設の多機能化（集約化・複合化）や統廃合、用途の転換等、効果的な公共施設の再編を進めるためにも、公共施設再編基本計画の策定が必要。 (1) 公共施設保有量の適正化に向けた、施設の統合や廃止に向けた検討状況と公共施設の適正配置に向けた検討状況について (2) 施設保有量（延べ床面積）の縮減に向けた検討状況について (3) 長期的な視点でみた、市民サービスにおける、機能・提供の在り方について (4) 公共施設再編基本計画の策定が必要と考えるが。				市長

質問順序	11	議席番号	17	質問者	寺田 守
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	人口減少時代にいかに立ち向かうか 県下でも人口増が続いている自治体として活力を維持してきた当市であるが、いよいよ人口減少局面に突入した。この現状を捉え市の向かうべき方向性を定めていくことは急務である。市の活力維持には、市の稼ぐ力つまりは産業振興が政策の基本におかれなくてはならない。そこで以下質問する。 (1) 市の経済の大本を支えている工業生産の現状、また今後の見通しはどうか。 (2) 年々縮小している農業生産の現状をどのように分析しているか。挽回の方向性をどのように考えているか。 (3) 近隣市町と比較して優位性を維持してきた卸売業についてどのように考えているか。				市長
2	アジアの成長をいかに取り込むか 市の活力を維持していくためには世界との関係、強いて言えばアジアの成長力を取り込んでいくことが必要である。このことに対する認識と対応策を問う。 (1) 当市には現在5,000人余の外国人が住んでいるがこの現実をどのように捉えているか。 (2) 観光で訪れる外国人が年々増えている。現状の当市の課題は何か。 (3) 当市にはアジアからの誘客を促す地域資源が多く存在している。活用すべきと考えるがどうか。				市長
3	チャレンジ&スマイルについて 大場市長はチャレンジ&スマイルを掲げて市政運営に当たられ、2期目の出馬を表明されている。市長はこの言葉にどんな思いを抱き、市政に当たろうとしているのか伺う。				市長

質問順序	12	議席番号	2	質問者	鈴木 賢和
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1	G I G Aスクール端末について 文部科学省が主導して1人1台の端末配備を推進し、本市でも約4年前に導入が完了した。しかし、導入から4年が経過した現在、多くの端末が耐用年数を迎え更新の時期を迎えている。 (1) 更新端末の規模と計画について (2) 現在使用している端末機の処分方法について (3) 教育現場における意見の反映について				教育長
2	被災時のトイレ対策の強化について 災害時、トイレ問題は避難所生活における深刻な問題です。応急トイレの使用方法が必要となるが、多くの住民がその作り方や使用方法について十分な知識を持ち合わせていません。このため、不衛生な状況が発生し、感染症のリスクが高まる可能性があります。避難所での生活の質を確保し、市民が安心して避難生活を送るためにも、トイレ対策の事前準備が必要です。これらを踏まえて、市民が災害時に安心して生活できるための具体的な取組について伺う。 (1) 防災訓練などにおけるトイレ対策の実践強化について (2) 家庭内での応急トイレの普及活動について				市長

質問順序	13	議席番号	20	質問者	大庭 通嘉
質問事項・要旨（具体的な質問事項）					答弁者
1 企業誘致	<p>「入るを量りて、以て出ざるを為す」この自治体経営の基本を実践するためにも、優良企業の誘致は、産業構造の体質強化、地域の就業機会の増加、市民所得の向上、市の財政基盤の確立などに必須である。</p> <p>(1) 袋井市の企業誘致戦略をどのように策定していくか。 (2) 常に30ヘクタール程度の企業誘致の受け皿の用地確保をすべきでは。 (3) 生成A Iが答える誘致企業に対する見解と、補助支援の在り方は。 (4) 森町袋井インター通り線沿線の今後の土地利用方策の考え方は。 (5) 大和ハウス工業kkの国本の跡地利用に対する市の誘導策は。</p>				市長
	<p>(6) 産業戦略官から見た袋井市の強み、弱み、ポテンシャルは。</p>				産業戦略官
2 治水対策	<p>袋井市は地勢学的にも周りを丘陵地に囲まれ、鍋底的平地に多くの河川が流れ込んでいる。これまで水害を克服するために河川整備を鋭意推進してきたが、今後、まちの市街化、企業誘致のためにも一層治水対策を進めるべき。</p> <p>(1) 二級河川蟹田川の早期改修を望む。 (2) 市は蟹田川河川改修の重要性について、どのように認識しているか。 (3) 準用河川松橋川の改修の今後の進め方は。</p>				市長
3 震災対策	<p>本市は全国的に見ても地盤の弱い地域であり、南海トラフ地震等、巨大な地震が発災した場合、甚大な被害が想定されている。昭和19年の東南海地震の被害状況を参考に、いま一度、震災対策を見直すべきでは。</p> <p>(1) 昭和19年の東南海地震の本市の被害を教訓に対策をすべきでは。 (2) 木造住宅対象の無料耐震診断など住宅耐震化の本市独自の推進策は。 (3) 避難所の環境改善を早急に進めるべきでは。 （国の指針改定への対応、小中体育館への空調導入など） (4) 防災備品の現状と今後の対策は。</p>				市長